するに在り、險岨恃むへからすとて、長城修築の工事を興すを禁したりき。爾後歴朝此主義を遵守し、少しも修理を加ふることなきを以て、長城の荒廢は日に月に甚しからんとす。元來創造の才ありて修理の能少なきは支那人の通性なるに、絶對に長城を放任する清廷の措置より看れは、此一名物の末路亦知るべきのみ。

二十四日氣温は午前零度、午後二十一度を示す。大坡(ターポ)、坂橋(パンチヤオヘイ)、黑松堡(スンプ)、桐江坡(トンチヤンポ)、十八里堡、十里堡を經て、古浪(クーラン)に入る。古浪は人家約五百戸、城壁之を繞り、縣及把總衞門、其の他蒙養學堂三、高等小學堂一を有して、人民は漢人大部を占め、蒙古人、回人若干あり。燃料は、薪、木炭、石炭、麥稈、馬糞等を用ゐ、薪、木炭、石炭(炭粉)は、其の南方約四里許なる楊山及西方約三里の山中より産し、飲水には河水を用ゐ最も良好なり。次で張家堡、改家(カイチヤ)舖、小橋、僕家(モーチヤ)庄、雙塔大墩(シヨワンターードン)、楊家舖等を過ぎ、行程約十四里靖遠(チンヨワンイ)驛に泊す。

是日經過の地形を按ずるに、龍溝より古浪に到る間は、殆んど狹長の谷地を成し、其の廣き處も約三百米突に過ぎず。即ち東に烏沙嶺脈西に八盤嶺脈を仰き、白塔河其間を北流し、兩側山地の斜面は共に急なりとす。又古浪、靖遠間は、西に八盤嶺脈延長し。大墩に到りて終り、烏沙嶺脈は遠く東北に走りて影を沒し、全く開濶せ